

(任)日本地質学会 2009 年度第 9 回理事会議事録

2010 年 2 月 26 日

日本地質学会
会長 宮下純夫

期 日：2010 年 2 月 13 日（土）13:00～15:00

場 所：地質学会事務所

出席者：宮下会長，高木副会長，渡部常務理事 藤本副常務理事 井龍 石渡 上砂 齋藤

坂口 久田 向山 各理事，橋辺（事務局）

欠席者：佃副会長，岩森 倉本 小嶋 藤林 矢島

* 成立員数（12/17）に対し，出席者 11 名，委任状 6 名，欠席者 0 名で，理事会は成立.

* 前回議事録の承認

報 告

1. 運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）

総務委員会（委員長—上砂）

報告事項

- ・ 学術振興会賞受賞者決定，理工系に地球科学系の受賞者はなかった.
- ・ 消防庁より，消防防災科学技術研究推進制度により研究課題の公募案内→news，メルマガに掲載
- ・ 事務体制：1 月から紹介派遣の形式で派遣社員（阿南晶子さん）が勤務を開始．3 ヶ月経過の時点で正式雇用するかどうかを決定（3 カ月派遣延長も可能）.

会員関係（担当理事 向山）

1) 入会者 3 名

正会員 (1) 哈斯巴特尔（ハスバートル），Ahn Jae Wook（アン ゼ ウク）

正〃（院割）(1) 相山光太郎

準会員 (2) 岡崎遼太郎 竹原真美

2) 逝去者 2 名（正 2）根本 守（2009/12/2 逝去）本庄 充（2010/1/4 逝去日とする）

3) 10 月末日会員数

賛助 30，名誉 73，正 4220（うち院 218），準 33，合計 4356（前年同期比 -104）

4) 法人との兼用会員名簿を刊行し，1 月号の雑誌とともに会員に配布した.

5) 会員カード（磁気，バーコード）の採用を検討中，採用するとすれば今年度中に着手.

会員の証明およびイベント参加記録などに利用.

6) 会員の年齢構成を考慮した会員数と会費収入の動向

会員数は、来年度には4000名を切る見込みが大きい(ただ、減員の割合は縮小傾向)

これによって会費収入は年間100万円程度で減額見込み、会員の減少を防ぐとともに、

最低限の事務局維持に必要な固定的経費を確保し、公益的事業費などは外部予算獲得を目指す必要性がある.

会計関係(担当理事 向山)

- ・年会登録システム構築にあたりクレジットカード決済導入を検討し、代行手数料等を比較して、(株)イプシロンにクレジットカード(VISA・MASTER・DINERS)の代行申請を行った。現在イプシロン社内の第一次審査は通過し、クレジットカード会社の二次審査中で、早ければ今月中に結論がでる予定.
- ・支部事業計画及び収支予算案の提出がはじまり、北海道支部、関東支部、西日本支部から提出されている.
- ・IYPEのファイナルイベントに対する特別協賛金12万円、イベント参加依頼の早稲田高等学院の生徒および引率者に交通費と弁当代の支給をする.
- ・IYPEは2009年で終了なので、2010年度から出版物などのロゴをはずす.

広報委員会(担当理事 倉本=情報特任・坂口)

・フォトコンテスト最終審査を1月19日におこない入賞者を決めた。News誌2月号およびメルマガにて公表、IYPEファイナルイベントにて表彰する.

2. 学術研究部会(部会長-石渡)

行事委員会(担当理事・委員長 斎藤)

- ・富山大会について

富山大学から後援の承諾を受けた.

現在、シンポジウム、トピックセッション等の申し込み受け付け中。(3月半ばまで)

専門部会連絡委員会(担当理事 藤本)

国際交流委員会(担当理事 石渡=国際特任理事)

日韓交流: 8月23日~25日開催予定の構造地質部会主催の日韓合同大会(於:室戸ジオパーク)について、韓国側からの申し出で韓国地質学会として参加を対応するとの申し出があり、部会単位ではなく、学会どうしの交流として位置づける予定。そこで、韓国地質学会

Lee Yong Il 新会長の招待について、富山大会も考慮しつつ要検討(高木)。

上記について審議の結果、当該事業を富山大会のプレ事業として位置付けるとともに学会相互交流と位置付ける。また、韓国地質学会の会長は富山大会に招待する。

3. 編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）

地質学雑誌編集委員会（委員長 久田 副委員長-小嶋，岩森=企画担当）

- ・ 116-2月号：総説1 論説2 短報1 報告1 （約60ページ・校正中）
- ・ 116-3月号：論説3 短報2 口絵1 （約60ページ・入稿準備中）
- ・ 今月の編集状況は以下のとおりです（2月12日現在）。

2010年度投稿論文 総数7編 [論説6（和文6）・報告1（和文1）]

口絵4（和文3 英文1）

査読中 52編 受理済み 16編（うち通常号3 特集号13）

・ 口絵の引用文献数について改定案（現行1つ以内→改定案3つ以内）を編集委員会内で検討。編集規則（I-1-e 項）の改定として、理事会に諮り承認をうける。

Island arc 編集委員会（担当理事 井龍，事務局長 竹内圭史・角替敏昭）

- ・ 編集状況報告（2/1 現在）
- ・ W&B社との協議：インパクトのある特集号を Synergy で課金なしのフリーアクセス対象とする。新たなカテゴリーとして Invited paper を作る（年に1-2編見込み）
- ・ Invited paper のページチャージや英文校閲費用については学会負担（およそ20万円くらい）とすることを検討し、承認した。
- ・ 2月5日，事務引き継ぎのため産総研内事務局を訪問。2月末の完全引き継ぎまでメール 等で指導を受けながら作業中。今年度をもって（実質は2月末）事務局を本部内に移転する。

企画出版委員会（担当理事 藤林）

- ・ 「城ヶ島たんけんマップ」（蟹江康光代表）の企画提案書が出版企画委員会に出された。リーフレット企画出版委員会において検討の結果，本企画の提案を採用することとし，理事会に報告することとした。すでに原稿の概要案ができていたので，できれば2月中に完成案の提出を要請し，今年度の事業となることを期待している。
- ・ 理事会として，上記企画のリーフレット企画出版委員会の採用を承認した。

4. 普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）

・ IYPE ファイナルイベントのプログラムが決まった。地質学会は特別協賛し，以下の行事を行うこととした。

日時：3月27日（土）15-16時

タイトル：「早大高等学院の高校生，四川大地震の記録映像製作者と一緒に語る『大地の変動』」

内容：早稲田大学高等学院地学クラブの高校生が日頃の研究成果を発表し，日本地質学会司会のもと，四川大地震の記録映画の製作者と一緒に，大地の変動について討論します．詳細は次の予定です．

1. 早大高等学院地学クラブの研究紹介（20～25分程度） 発表2件
2. 早大高等学院地学クラブの高校生さんたちと四川大地震記録映画制作者との「大地の変動」に関する討論（30分），その中で，記録映画のダイジェスト版（15分）を投影．

司会：倉本真一（日本地質学会）

地学教育委員会（委員長-中井均）

- ・JSEC2009の事務局に対し，会長名で再審査委員についての要望書を出した．

地層名委員会（委員長 天野）

- ・1月22日，第四紀問題に関し，学術会議主催，第四紀および本学会との共催でシンポジウム開催した．→ 審議事項

5. 各委員会等

支部長連絡会議（担当理事 高木）

- ・関東支部の2010年度秋のシンポジウムは第四紀学会との共催で行うこととなった．
“関東盆地の地下地質構造と形成史”
- ・西日本支部長 宮本隆実会員（広島大）に交代

JABEE委員会（委員長 天野）

- ・2月22日臨時総会開催，橋辺が代理出席することとした．

ジオパーク支援委員会（委員長 天野）

ニュース誌にジオパークコーナーを設けること，ジオルジュで，毎回1件ずつジオパークの特集を組むことについて，坂口理事とともに前向きに検討（坂口・高木）．

法務委員会（担当理事・委員長 上砂）

各賞選考にあたって利益相反規定に基づいて行うよう各賞検討委員会に加えて各賞選考委員会にも周知する．

6. 地質の日委員会（藤林委員）

7. IYPE 日本（佃副会長）

- ・ファイナルイベントのプログラムが決まった.

8. 日本ジオパーク委員会（高木委員）

- ・委員会メンバーとして、新たに JGN の正会員地域のジオパーク運営者、さらに、地域振興の専門家も加える方向で検討中.

9. NPO 地学オリンピック日本委員会（久田）

3月24-26日に筑波で二次選抜 24名の中高生参加

国際地学オリンピック日本大会の組織づくり

委員長は上田誠也氏を予定、募金委員長は関連企業の方に交渉中

2月23日（火）に準備委員会を開催、本会からは高木副会長が会長の代理出席をする.

10. 日本学術会議（佃副会長）

1月22日、第四紀問題でシンポジウム開催、参加者は150名ほどでたいへん盛況であった.

その後、記者会見を行った.

審議事項

1. 第四紀・第三紀問題について

- ・地層名委員会として、1月22日付で公表された「第四紀と更新世の新しい定義と関連する地質時代・年代層序の用語について」について専門部会長も含めた拡大地層名委員会に意見を求めた。慎重な意見も若干出されたが根本的な異論は出されなかったので、4月の評議員会に向けて地層名委員会としての報告を行う予定

- ・国際的な動向を把握し、学会としての対応を行うために、IGCなどの関連委員会の日本人の委員を調べ、動向を調査する.

なお、理事会としては以下の方針を承認

- ・1月22日公表の文書の内容を本学会の指針とし、今後雑誌やHPなど学会の公式文書は、それに従うこととする。学術大会の講演や講演要旨などについては第三紀の使用を妨げない.

- ・地層名委員会と理事会の連名で、指針と推奨する年代表をHPやNews誌などに速やかに掲載.

以上